

環境活動レポート



〔2011 年度版〕

(対象期間:2011/9~2012/8)

2012 年 11 月 2 日作成

木田工業株式会社

目 次

1. 環境方針	2
2. 会社概要	3
3. 環境目標とその実績	5
4. 主要な環境活動計画の内容及び取組結果の評価と次年度の取組内容	6
5. 環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	7
6. 代表者による全体評価と見直しの結果	7

1. 環境方針

環 境 方 針

基本理念

私たちは、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを全員で認識し、企業活動のあらゆる場面で、地球環境の保全に取り組み、地球環境と調和した持続可能で豊かな社会の形成に貢献します。

行動指針

1. プラスチックの切削加工、その他、全ての事業活動において生じる環境への負荷を低減するために、環境経営システムを確立し環境活動の継続的改善を行います。
2. 全ての部門で次の削減に取り組みます。
 - 1) 二酸化炭素排出量の削減
 - 2) 廃棄物排出量の削減
 - 3) 水使用量の削減
 - 4) 化学物質使用量削減
 - 5) グリーン購入
 - 6) 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮
3. 不良の低減、端材の工夫活用による材料削減で、使用材料の効率化を図ります。
4. 私たちは、環境に関する法律、規制、及び当社が合意するその他の要求事項を遵守し、地球環境との調和、並びに汚染予防に努めます。
5. 環境方針は、全ての従業員、及び当社に直接関わる人々に周知し、環境保全活動推進への意識を高め、よき地域企業として社会に貢献します。
6. 環境活動レポートを広く一般に公表します。

制定：2009年10月 1日

改訂：2011年 7月 1日

木田工業株式会社

代表取締役社長 木田 豊

2. 会社概要

2.1 事業所名及び代表者名

木田工業株式会社
代表取締役社長 木田 豊

2.2 事業所の所在地及び認証・登録範囲

事業所	所在地	認証・登録範囲の該否
本社・工場	東京都大田区矢口 1-5-8	該当
栃木出張所	栃木県宇都宮市幕田町 705-3	該当

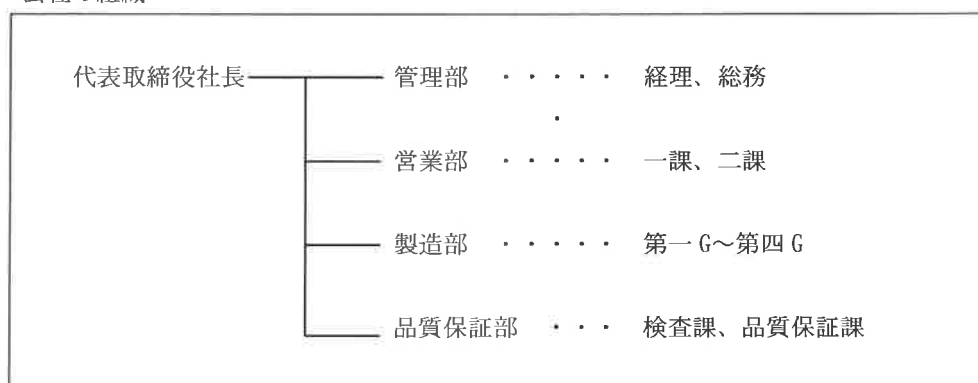
2.3 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 部長 熊井戸富美男
担当者 品質保証部 熊井戸富美男
連絡先 電話 03-5741-7410 FAX 03-5741-7413
E-mail f-kumaido@kida-i.com

2.4 事業活動の概要

プラスチック製品の切削加工及び組立（エンジニアリングプラスチックパーツの製造を含む）

2.5 会社の組織



2.6 事業の規模

(1) 資本金

2,000 万円

(2) 主要製品の生産量・出荷量（2011年度：2011/9～2012/8）

製品名	生産量・出荷量 (kg)
アミューズメント用外装品	19,100
その他プラスチック切削加工品	78,300

(3) 従業員数

社員 48名 パートタイマー 14名 合計 62名

(4) 事業所の敷地・建屋面積

敷地面積	建屋延べ床面積
1,140 m ²	3,185 m ²

2.7 施設等の状況

〔主な機械・検査設備及び車両等〕

設備名	能力仕様	台数
マシニング	300×300×300 ~ 2050×1060×800	27
NC旋盤	φ25 ~ φ320	20
旋盤	φ230 ~ φ720	10
NCフライス	700×350 ~ 750×400	7
フライス	400×150 ~ 750×400	3
溶接ガン		5
NCドリラー		2
プレーナ		3
パネルソー		2
バフ機		4
鏡面機		1
その他、生産設備		18
三次元測定機		1
輪郭形状測定機		1
画像寸法測定器		1
車両	ガソリン車	6
車両	ハイブリット車	1

2.8 許認可・届出の内容

許認可・届出の区分	名称	許認可・届出先	年月日
許認可	工場設置認可申請書	大田区長	H19.11.6
届出	特定施設設置届出書	大田区長	H19.11.6

3. 環境目標とその実績

環境目標	取組項目	基準値		2010年度 実績	2011年度 実績	2012年度	2013年度
1. 二酸化炭素排出量の削減 (※)	①電力使用量の削減 ②化石燃料使用量の削減	2008年度 実績 247.5 Kg-CO ₂ /百万	目標	基準値の 6.3%削減 231.8 Kg-CO ₂	同左 8.4%削減 226.7 Kg-CO ₂	同左 9.6%削減 223.7 Kg-CO ₂	同左 9.9%削減 223.0 Kg-CO ₂
			実績	7.9%削減 228.0 Kg-CO ₂	9.2%削減 224.7 Kg-CO ₂		
			達成	○	○		
2. 廃棄物排出量の削減	廃棄物のリサイクル及び最終廃棄物の削減(リサイクル率向上)	2008年度 実績 58.1 % リサイクル量/ 総排出量	目標	基準値の4 ポイント改善 60.4%	同左 5P改善 61.0%	同左 15P改善 66.8%	同左 16P改善 67.4%
			実績	4.6P改善 60.8%	13.6P改善 66.0%		
			達成	○	○		
3. 水使用量の削減	水の効率的な利用	2008年度 実績の維持・ 継続0.93/人 [m ³ /月]	目標	基準値の 維持・継続 0.91/人	同左 0.91/人	同左 0.91/人	同左 0.91/人
			実績	0.85/人	0.88/人		
			達成	○	○		
4. 化学物質使用量の削減	化学物質の適正な管理 (定期的確認)	・ジカロマン ・トルエン (2品種管理)	目標	3か月毎に 使用量の 把握管理 を行う	3か月毎に 使用量の 把握管理 を行う	同左	同左
			達成	○	○		
5. 製品及びサービスに関する環境配慮	計画納入の推進	納期順守率 の把握と 管理	目標	85%以上	85%以上	87%以上	87%以上
			実績	85.3%	86.8%		
			達成	○	○		
6. グリーン購入	購入用紙のECO化推進	購入用紙のECO比率 (参考)	目標	59.4%	59.4%	60.0%	60.0%
			実績	52.7%	49.0%		
7. 地域環境全活動の推進	地域清掃活動	2008年度 実績なし	目標	毎月清掃 社員に展開	毎月清掃 社員に展開	同左	同左
			実績	朝会で徹底 毎月清掃	朝会で啓蒙 毎月清掃		
			達成	○	○		

(※) 購入電力の排出係数は、0.332 (kg-CO₂/kWh)を使用。

4. 主要な環境活動計画の内容及び取組結果の評価と次年度の取組内容

項番	取組項目	具体的活動内容	○ △ ×	取組結果の評価	2012年度の取組
1.	①電力使用量の削減	・冬場のエアコン温度管理の徹底 ・照明電力の節電 ・使用後のこまめな消灯	△ ○	・冬場で管理目標値を超え。業務のピークと厳冬が重なったため。(2月)	・冬場のエアコン温度管理をこまめに実施し、デマンド値を下げる。
	②化石燃料使用量の削減	・エコドライブの徹底 ・納入や営業活動時の効率的なルート検討	○ ○	・エコドライブの実践と営業回りルートの工夫で燃料使用量を改善。計画比107%達成	・エコドライブの継続実施と定着
2.	廃棄物排出量の削減	・廃材の分別精度の向上 ・廃材の燃料資源化の取組	○ ◎	・RPF化に向けた分別精度の向上 取組で短期間にRPFへ転換できた	・廃材の分別精度の維持 (リサイクル・RPF化)
3.	水使用量の削減	・機会(朝会や掲示物)ある毎に啓蒙し、使用量の抑制を図る	○	・継続して水使用量を抑制することができた	・掲示物で啓蒙し、使用量の抑制を図る
4.	化学物質使用量の削減	・使用化学物質を適正に管理(種類と使用量)している事を3カ月毎に確認	○	・定期的に使用状況を把握する事ができるようになった	・継続して3カ月毎に確認実施
5.	製品及びサービスに関する環境配慮	・計画納入(納期順守率)する事が結果として環境に優しいことから、納期順守率の管理を実施	○	・担当者間でバラツキはあるものの、全体とし目標をクリア	・継続して目標をクリアする様取組む
6.	グリーン購入	・グリーン購入品の品種追加検討(5→6品種へ) 用紙の変更検討と併せて、ツールの変更も検討	○	・ツールの変更が可能(ファイリング方法)であったため、ECO用紙に変更できた	・コピー用紙の裏紙使用の徹底 ・利用環境の整備(裏紙収納箱の改善設置)
7.	地域環境保全活動の推進	・清掃活動に対する啓蒙 ・継続的な清掃活動の推進	○ ○	・清掃活動のPRを通して、継続的な清掃の風土が出来上がってきた	・月一回の活動を継続して取組む

5. 環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

5.1 環境関連法規の遵守状況確認と評価結果及び違反

当社に適用される環境関連法規等については、平成 24 年 9 月 7 日遵守状況の確認と評価の結果、違反等の問題がないことを確認しております。

(確認関係法令・条例：廃棄物の処理及び清掃に関する法律、廃棄物の処理及び再利用に関する法律、循環型社会形成推進基本法、資源の有効な利用の推進に関する法律、容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律、エネルギーの使用の合理化に関する法律、東京都生活環境保全等に関する条例、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律、消防法、大田区廃棄物の減量及び適正処理に関する条例)

5.2 訴訟等

当社の環境管理に対する利害関係者からの訴訟又は関係当局からの指摘等は過去 3 年間ありません。

6. 代表者による全体評価と見直しの結果

【全体評価】

- 3 年目となる本年は、各々の環境改善取組みの真価が問われる年であった。結果は概ね良好で、改善の方向にあると確認する事ができた。
- ・二酸化炭素排出量は、全体として目標を達成する事ができた。特に化石燃料消費量は、基準年度（2008 年）比較で 37%の改善が図られた。
 - ・廃棄物は全員の分別意識の高まりとその実践で、プラスチックの RPF 化に短期間で移行し、リサイクル率の大幅向上を図る事ができた。
 - ・環境改善の意識が社員全体へと広がりを見せ、照明のこまめな消灯や廃材の分別等に具体的な行動として見られるようになってきた。

【見直し】

使用電力量は、前年度比で改善は図られたものの、僅かに目標達成には届かなかった。

※使用電力量の削減取組については、引き続き更なる努力を求めて行く。

以上